

LUBRICATING OIL COMPOSITION

Patent number: JP8134488
Publication date: 1996-05-28
Inventor: BABA ZENJI; AOKI NOBUHIRO
Applicant: SHELL INT RESEARCH
Classification:
 - international: C10M169/04; C10N30/06; C10N30/12; C10N40/06
 - european:
Application number: JP19940275185 19941109
Priority number(s): JP19940275185 19941109

Also published as:

EP0711822 (A2)
 EP0711822 (A3)

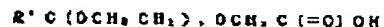
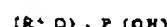
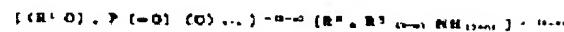
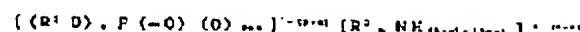
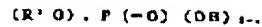
Abstract not available for JP8134488

Abstract of correspondent: **EP0711822**

Lubricating oil compositions for use in lubricating the slideway of a machine tool or injection moulding machine.

The lubricating oil composition comprises (a) a base oil, (b) one or more friction reducing agents preferably selected from phosphoric acid esters or their alkyl ammonium salts, phosphorous acid esters and fatty acids, and (c) one or more linear alkyl amines.

Preferably, the amount of the friction reducing agent(s) (b) is 0.05 to 10.0% by weight based on the amount of the base oil (a) and the amount of the linear alkyl amine(s) (c) is 0.1 to 20.0% by weight based on the amount of the friction reducing agent(s) (b).



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-134488

(43)公開日 平成8年(1996)5月28日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

C 10 M 169/04

// (C 10 M 169/04

101: 02

105: 04

105: 32

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平6-275185

(22)出願日 平成6年(1994)11月9日

(71)出願人 590002105

シエル・インターナショナル・リサーチ・
マートスハツペイ・ペー・ヴェー
オランダ国、ザ・ハーグ・2596・ハー・エ
ル、カレル・ファン・ビュランドトレー
ン・30

(72)発明者 馬場 善治

神奈川県秦野市南矢名1130-86

(72)発明者 青木 信浩

神奈川県横浜市旭区中尾町21-1-2-7

(74)代理人 弁理士 川口 義雄 (外2名)

(54)【発明の名称】 潤滑油組成物

(57)【要約】

【目的】 本発明は、工作機械等の送り系の位置決め精度を改善することのできる潤滑油組成物を提供することを目的とする。

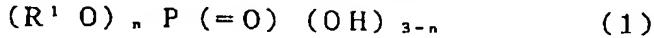
【構成】 基油(a)、酸性磷酸エステル又はそのアルキルアンモニウム塩や亜磷酸、脂肪酸などの摩擦低減剤(b)、及びC₈₋₂₂の直鎖アルキルアミン(c)からなり、摩擦低減剤(b)は基油(a)に対して0.05~10.0重量%、直鎖アルキルアミン(c)は摩擦低減剤(b)に対して0.1~20.0重量%含まれている。

1

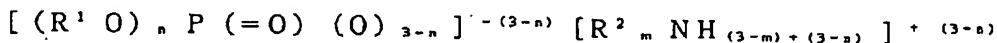
【特許請求の範囲】

【請求項1】(a) 鉱物系潤滑油、植物油系潤滑油及び合成潤滑油から選ばれた少なくとも1種類の潤滑油からなる基油、

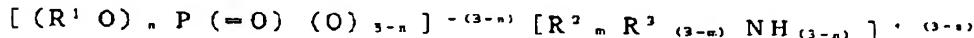
* [化 1]



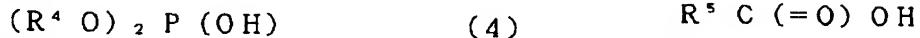
[化2]



【化3】

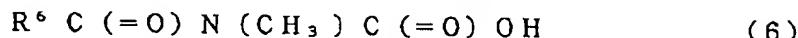


【化4】



【化5】

※ 【化6】



【化7】



(c) 上記摩擦低減剤(b)に対し、0.1～20.0重量%の下記式(8)及び(9)で示されるアミンから選ばれた少なくとも1種類の直鎖アルキルアミン

〔化8〕



〔化9〕



(但し、式中、nは1又は2の整数、mは1～3の整数、pは1～10の整数、R¹は炭素数4～22の飽和又は不飽和のアルキル基、炭素数6～24のアルキルアリール基、ポリオキシエチレンを1～10モル付加したアルキル基、又はポリオキシエチレンを1～10モル付加したアルキルアリール基、R²は炭素数4～22の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数6～24のアルキルアリール基、R³はメチル又はエチル基、R⁴は炭素数8～22の飽和又は不飽和のアルキル基、又はアルキルアリール基、R⁵は炭素数7～23の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数7～23の硫化アルキル基、R⁶は炭素数12～18の飽和又は不飽和アルキル基、R⁷は炭素数8～18の飽和又は不飽和アルキル基、R⁸は炭素数8～22の飽和又は不飽和の直鎖アルキル基。但し、R²が直鎖のアルキル基の場合はR⁸はR²よりも大きな炭素数の直鎖アルキル基)からなる潤滑油組成物。

【発明の詳細な説明】

[0 0 0 1]

【産業上の利用分野】本発明は、工作機械等の滑り案内面の潤滑に好適に用いられる潤滑油組成物に関する。本

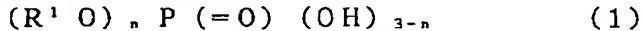
50

【0006】本発明は、高精度な加工が要求される工作

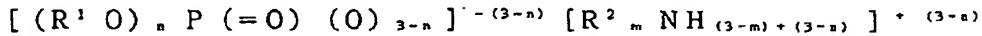
機械に好適に使用でき、工作機械の案内面の位置決め特性を改善し得る腐食性の少ない潤滑油組成物を安価に提供することを目的とする。

【0007】

【課題解決のための手段】本発明の潤滑油組成物は、潤滑油基油に対して、従来から使用されてきた比較的極性の高い摩擦低減剤（酸性磷酸エステル若しくはそのアミン塩、亜磷酸エステル、又は高級脂肪酸）の他、特定のアルキルアミンを極微量更に添加したものである。*



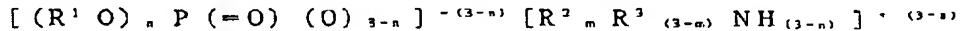
【0010】



(2)

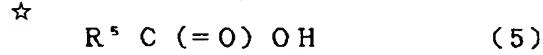
【0011】

★ ★ 【化12】

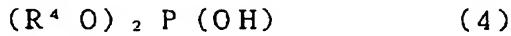


(3)

【0012】

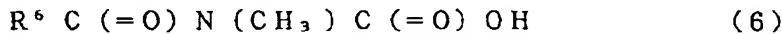


【化13】

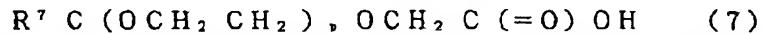


【0013】

【化14】



【0015】



【0016】(c) 上記摩擦低減剤(b)に対し、0.1～20.0重量%の下記式(8)及び(9)で示されるアミンから選ばれた少なくとも1種類の直鎖アルキルアミン

【0017】

【化17】



【0018】

【化18】



【0019】(但し、式中、nは1又は2の整数、mは1～3の整数、pは1～10の整数、R¹は炭素数4～22の飽和又は不飽和のアルキル基、炭素数6～24のアルキルアリール基、ポリオキシエチレンを1～10モル付加したアルキル基、又はポリオキシエチレンを1～10モル付加したアルキルアリール基、R²は炭素数4～22の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数6～24のアルキルアリール基、R³はメチル又はエチル基、R⁴は炭素数8～22の飽和又は不飽和のアルキル基、又はアルキルアリール基、R⁵は炭素数7～23の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数7～23の硫

* 【0008】即ち、本発明の潤滑油組成物は、(a) 鉱物系潤滑油、植物油系潤滑油及び合成潤滑油から選ばれた少なくとも1種類の潤滑油からなる基油、(b) 上記基油(a)に対し、0.05～10.0重量%の下記式(1)～(7)で示される化合物から選ばれた少なくとも1種類の摩擦低減剤、及び

【0009】

【化10】

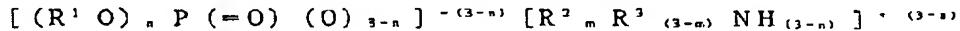


※ ※ 【化11】



(2)

★ ★ 【化12】



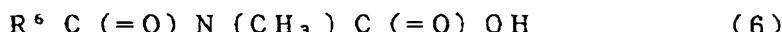
(3)



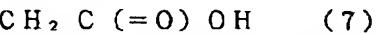
【0014】

【化15】

☆



◆ ◆ 【化16】



化アルキル基、R⁶は炭素数12～18の飽和又は不飽和アルキル基、R⁷は炭素数8～18の飽和又は不飽和アルキル基、R⁸は炭素数8～22の飽和又は不飽和の直鎖アルキル基。但し、R²が直鎖のアルキル基の場合R⁸はR²よりも大きな炭素数の直鎖アルキル基からなることを特徴とするものである。

【0020】以下、本発明の潤滑油組成物の各構成成分について詳しく述べる。

【0021】本発明において、基油(a)としては、鉱物系潤滑油、植物油系潤滑油又は合成潤滑油が用いられ、

ISO VG 10～220 (40°C) の動粘度を有するものが好ましい。

【0022】基油(a)として用いられる鉱物系潤滑油としては、パラフィン系鉱油、又はナフテン系鉱油を溶剤精製若しくは水素化精製したものが挙げられる。

【0023】植物油系潤滑油としては、菜種油、米糠油、大豆油等の植物油脂類が挙げられる。

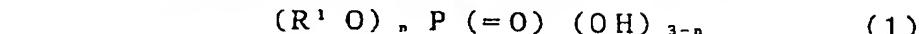
【0024】合成潤滑油としては、オレフィンオリゴマー、ポリブテン、又はアジピン酸、アゼライン酸、フタル酸、オレイン酸、ステアリン酸のエステル類等の脂肪酸エステル、又はトリメチルプロパンのオレイン酸

エステル、ペンタエリスリトールのオレイン酸エステル、ネオペンチルグリコールのオレイン酸エステル、トリメチルプロパノールのイソステアリン酸エステル等のポリオールエステル等が挙げられる。

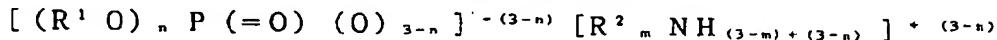
【0025】これらの基油は、各々単独で使用することもでき、混合物として使用することもできる。

【0026】次に、本発明において用いられる摩擦低減剤(b)について説明する。

【0027】摩擦低減剤(b)としては、酸性磷酸エステル



【0030】
※ ※ 【化20】



*ル、酸性磷酸エステルのアルキルアンモニウム塩、亜磷酸エステル、又は脂肪酸を用いることができる。以下、これらの化合物について説明する。

【0028】1) 酸性磷酸エステル及びそのアルキルアンモニウム塩：酸性磷酸エステルは下記式(1)で示され、そのアルキルアンモニウム塩は下記式(2)或いは(3)で示されるものである。

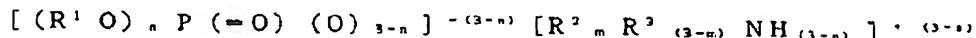
【0029】

【化19】

(2)

【0031】

★ ★ 【化21】



(3)

【0032】但し、これらの式中において、nは1又は2の整数、mは1～3の整数を示し、R¹は炭素数4～22の飽和又は不飽和のアルキル基、炭素数6～24のアルキルアリール基、ポリオキシエチレンを1～10モル付加したアルキル基、又はポリオキシエチレンを1～10モル付加したアルキルアリール基を示す。R²は炭素数4～22の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数6～24のアルキルアリール基を、R³はメチル又はエチル基を示す。

【0033】このような酸性磷酸エステル及びそのアルキルアンモニウム塩の例としては、ブチル酸性磷酸エステル、ヘキシリ酸性磷酸エステル、オクチル酸性磷酸エステル、2-エチルヘキシリ酸性磷酸エステル、イソデシリ酸性磷酸エステル、ラウリル酸性磷酸エステル、ステアリル酸性磷酸エステル、オレイル酸性磷酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル酸性磷酸エステル、ポリオキシエチレンイソオクチルフェニルエーテル酸性磷酸エステル等のジアルキル若しくはモノアルキル酸性磷酸エステル類、及び、これらの酸性磷酸エステル類を、ブチルアミン、ジブチルアミン、オクチルアミン、トリオクチルアミン、2-エチルヘキシリアミン、ジ-2-エチルヘキシリアミン、t-アルキルアミン(R^a R^b R^c CNH₂で示されるアミンであって、R^a、R^b、R^cは、アルキル基であり、炭素数の合計は3～25の範囲である)、イソトリデシルアミン、ジイソトリデシルアミン、トリデシルアミン、ジトリデシル☆

☆アミン、ジメチルオクチルアミン、又はジフェニルアミンで中和した酸性磷酸エステルのアルキルアンモニウム塩類のようなものがある。

【0034】2) 亜磷酸エステル：本発明で使用される亜磷酸エステルは、下記式(4)で示されるものである。

【0035】

【化22】



【0036】但し、式中、R⁴は炭素数8～22の飽和又は不飽和のアルキル基、又はアルキルアリール基を示す。

【0037】このような亜磷酸エステルの例としては、亜磷酸ジオクチル、亜磷酸ジラウリル、亜磷酸ジオレイル、のようなものがある。

【0038】3) 脂肪酸：本発明で使用される脂肪酸は、下記式(5)、(6)及び(7)で示されるものである。

【0039】

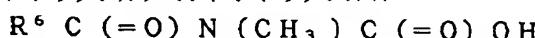
【化23】



【0040】

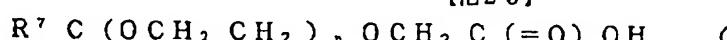
【化24】

(6)



【化25】

(7)



【0041】

【0042】但し、式中、 p は1～10の整数、 R^5 は炭素数7～23の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数7～23の硫化アルキル基を示し、 R^6 は炭素数12～18の飽和又は不飽和アルキル基、 R^7 は炭素数8～18の飽和又は不飽和アルキル基を示す。

【0043】このような脂肪酸としては、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、エルカ酸、リノール酸、リノレン酸、硫化オレイン酸等の脂肪酸類、ラウロイルサルコシン、ミリストイルサルコシン、パルミトイルサルコシン、オレオイルサルコシン等のN-アシルサルコシン類、ポリオキシエチレンラウリルエーテルカルボン酸、ポリオキシエチレンステアリルエーテルカルボン酸、ポリオキシエチレン牛脂エーテルカルボン酸等のアルキルエーテルカルボン酸類のようなものが挙げられる。

【0044】これらの摩擦低減剤は、1種だけを用いてもよく、2種以上を併用してもよい。

【0045】本発明において摩擦低減剤(b)と併用される直鎖アルキルアミン(c)としては、下記式(8)又は(9)で示されるものが用いられる。

【0046】

【化26】



【0047】

【化27】



【0048】但し、式中、 m は1～3の整数を示し、 R^8 は炭素数8～22の飽和又は不飽和の直鎖アルキル基、 R^3 はメチル又はエチル基を示す。尚、摩擦低減剤(b)として酸性磷酸エチルのアルキルアンモニウム塩が直鎖のアルキルアミンで構成されている場合は、 R^8 は当該磷酸エチルのアルキルアンモニウム塩のアミンのアルキル基よりも炭素数の大きな直鎖アルキル基である。

【0049】これらの直鎖アルキルアミン(c)の例としては、オクチルアミン、ジオクチルアミン、トリオクチルアミン、ラウリルアミン、ミリスチルアミン、パルミチルアミン、ステアリルアミン、オレイルアミン、ジオレイルアミン、ジステアリルアミン、ジメチルステアリルアミン、ジメチルオレイルアミン、ジメチルココナツツアミンのようなものを挙げることができる。

【0050】本発明において、摩擦低減剤(b)の使用量は、基油(a)に対して0.05～10.0重量%であり、好ましくは0.1～5.0重量%である。摩擦低減剤(b)の使用量が0.05重量%より少ないと、充分な摩擦低減効果が得られないから好ましくない。一方、10重量%より多いと機械材料を腐食させるという問題が生じるから好ましくない。

【0051】一方、直鎖アルキルアミン(c)の使用量は、摩擦低減剤(b)に対して0.1～20重量%であ

り、1～10重量%の範囲が好ましい。直鎖アルキルアミン(c)の使用量が0.1重量%より少ないと、本発明の目的を達成することができない。一方、20重量%より多いと、併用する摩擦低減剤の酸性磷酸エチル、亜磷酸エチル、脂肪酸が直鎖アルキルを有する場合に、直鎖アルキルアミン(c)の鉱物系潤滑油に対する充分な溶解性が得られない。又、併用する摩擦低減剤の活性を減少させかえって潤滑性が損なわれるという問題がある。

【0052】本発明の潤滑油組成物には、この他、必要に応じ、公知の潤滑性向上剤を配合することができる。かかる潤滑性向上剤としては、高級アルコール、脂肪酸金属石鹼、動植物油脂、脂肪酸エチル類、動植物油脂硫化物、硫化エチル類、トリアルキル磷酸エチル、トリクロレジル磷酸エチル、トリアルキル亜磷酸エチル、有機モリブデン系摩擦低減剤、及びアルキルジチオ磷酸亜鉛等の油性剤や極圧剤、耐磨耗剤が挙げられる。本発明の潤滑油組成物には、更に、酸化防止剤、防錆剤、清浄剤、粘度指数向上剤、流動点降下剤、金属不活性剤、消泡剤、抗乳化剤、付着性向上剤(タッキネス剤)等を適宜配合することができる。

【0053】

【発明の効果】本発明の潤滑油組成物は、特定の添加剤を組み合わせることにより、公知の添加剤単独では達成できなかった高い位置決め精度が得られるので、工作機械の加工精度の向上に著しい効果を得ることができる。又、高精度の成形が要求される射出成形機等の案内面油として特に有用なものである。

【0054】更に、従来の摩擦低減剤のみでは、所要の性能を得るのに高濃度の摩擦低減剤の添加が必要であったが、本発明の潤滑油組成物においては添加剤濃度の低減が可能である。このため、本発明の潤滑油は、高濃度の摩擦低減剤の添加によって引き起こされる機械部品の腐食を防止する上でも有効である。更に、潤滑油組成物の価格を低減させる上でも効果がある。

【0055】

【実施例】以下、本発明を実施例により更に詳しく説明するが、本発明がこれらの実施例により限定されないことはいうまでもない。

【0056】【実施例1～8、比較例1～12】

【試験油の調製】潤滑油基油として、ISO VG 68、粘度指数110、流動点-15℃、全酸価0.00mg KOH/g、硫黄分0.5重量%のものを使用した。

【0057】添加剤として、硫化ラード(大日本インキ化学工業株式会社製)、オレイン酸(ユニケマ社製)、オクチル酸性磷酸エチル(旭電化工業株式会社製)とジトリデシルアミン(BASF AG製)を混合して得た酸性磷酸エチルアルキルアンモニウム塩(酸性磷酸エチルアミン塩1)、オクチル酸性磷酸エチル(旭

電化工業株式会社製) とジエチルヘキシルアミン (BASF AG 製) を混合して得た酸性磷酸エステルアルキルアンモニウム塩 (酸性磷酸エステルアミン塩 2) 、ヘキシル酸性磷酸エステル (A&W 社製) とターシャリー C₁₂₋₁₄ アルキルアミン (ロームアンドハース株式会社製) を混合して得た酸性磷酸エステルアルキルアンモニウム塩 (酸性磷酸エステルアミン塩 3) 、トリクレジル磷酸エステル (チバガイギー社製) 2-エチルヘキシルアミン (BASF AG 製) 、ジオレイルアミン (日本油脂株式会社製) 、ラウリルアミン (花王株式会社製)

オレイルアミン (ヘキスト社製)

ターシャリー C₁₆₋₂₂ アルキルアミン (ロームアンドハース社製) 、ジラウリルハイドロゲン亜磷酸 (堺化学工業株式会社製) 、を使用した。

【0058】 [位置決め精度の試験方法] JIS B 6338-2.8 項の立型マシニングセンタに関する最小設定単位送り試験法に従い、Y 軸に 10 秒毎にプラス方*

*向へ 1 ミクロノブつ、計 25 回の微小送りを行うよう数値制御で指令し、その後、統いてマイナス方向に同様の微小送りを間欠的に行うよう指令した。実際の移動量をレーザ測長器で測定し、一連の数値制御指令に対するマシニングセンタの送り軸の応答精度を潤滑油を替えて調べた。送り精度の評価は、プラス方向に送った後マイナス方向に送る指令に対し、実際にマイナス方向に動き出させるのに必要な指令単位数を測定し、最小設定単位送りのバックラッシュを比較することにより行った。試験は、24 ± 0.2 °C の恒温室内で行い、試験油で十分な慣らし運転を行い潤滑面が完全に試験油で潤滑されるようになった後、各々の試験油について 6 回繰り返しその平均値を求めた。

【0059】 [実施例及び比較例の説明] 実施例 1~6 を表 1 に、比較例 1~8 及び 11、12 を表 2 に、実施例 7 及び 8 並びに比較例 9 及び 10 を表 3 に示す。

【0060】

【表 1】

	実 施 例					
	1	2	3	4	5	6
酸性磷酸エステルアミン塩 1	-	-	-	0.75	0.75	0.75
酸性磷酸エステルアミン塩 2	-	0.60	-	-	-	-
酸性磷酸エステルアミン塩 3	-	-	0.65	-	-	-
オレイン酸	0.25	-	-	-	-	-
硫化ラード	-	-	1.00	-	-	-
トリクレジル磷酸エステル	-	-	-	-	-	-
ジオレイルアミン	-	-	-	-	-	0.01
2エチルヘキシルアミン	-	-	-	-	-	-
tert. C ₁₆₋₂₂ アルキルアミン	-	-	-	-	-	-
ラウリルアミン	-	0.01	-	-	0.01	-
オレイルアミン	0.01	-	0.01	0.01	-	-
JIS B 6338-2.8 バックラッシュ量 指令設定単位数	3	7	7	3	6	6

【0061】

【表 2】

11

12

	比較例									
	1	2	3	4	5	6	7	8	11	12
酸性磷酸エステルアミン塩1	-	-	-	-	-	0.75	-	-	0.75	0.75
酸性磷酸エステルアミン塩2	-	-	-	0.68	-	-	-	-	-	-
酸性磷酸エステルアミン塩3	-	-	-	-	0.65	-	-	-	-	-
オレイン酸	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-
硫化ラード	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
トリクロレジル磷酸エステル	-	0.50	-	-	-	-	-	0.50	-	-
ジオレイルアミン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2エチルヘキシルアミン	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-
ターチャリ-C ₁₆₋₂₂ アルキルアミン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラウリルアミン	-	-	-	-	-	-	-	0.01	0.01	-
オレイルアミン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
J I S B 6 3 3 8 - 2 , 8 パックラッシュ量 指令設定単位数	12	12	6	11	11	8	12	12	9	8

【0062】

* * 【表3】

	実施例		比較例	
	7	8	9	10
ヘキシル酸性磷酸エ斯特ル ジラウリルハイドロゲン亜磷酸	0.50	-	0.50	-
	-	0.50	-	0.50
オレイルアミン	0.01	0.01	-	-
J I S B 6 3 3 8 - 2 , 8 パックラッシュ量 指令設定単位数	6	3	10	7

【0063】本発明の配合例を実施例1～8に示す。又、摩擦低減剤を配合しない場合及び本発明で用いる特定の直鎖アルキルアミンを除いた配合例を比較例1～6及び比較例9、10に示す。更に、本発明の配合例において、特定の直鎖アルキルアミンのみを配合した例を比較例7及び8に、直鎖アルキルアミンに代えて分枝アルキルアミンを用いた例を比較例11及び12に示す。

【0064】実施例1と比較例3、実施例2と比較例4、実施例3と比較例5、実施例4、5及び6と比較例6、実施例7と比較例9、並びに実施例8と比較例10の各々を比較すると、脂肪酸、酸性磷酸エ斯特ル若しくはそのアルキルアンモニウム塩、又は亜磷酸エ斯特ル等に加えて比較的炭素数の大きい直鎖アルキルアミンを配

30 合した試験油を用いた場合（実施例1～8）は、直鎖アルキルアミンを配合しない試験油を用いた場合（比較例3～6、9及び10）に比べ、位置決めの際のパックラッシュが小さく位置決め精度を向上させ得ることが判る。

【0065】一方、比較例1と7及び比較例2と8との比較から、直鎖アルキルアミン単独では位置決め精度の改善は見られないことが判る。

【0066】又、比較例6と11及び12との比較から、2-エチルヘキシルアミンやターチャリ-C₁₆₋₂₂アルキルアミンのような分枝アルキルアミンを用いても、本発明の効果は得られないことが判る。

【手続補正書】

【提出日】平成6年11月24日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

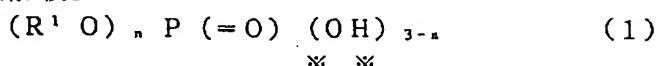
【補正内容】

【特許請求の範囲】

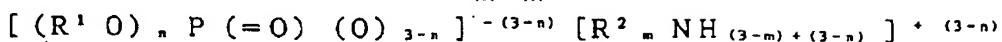
【請求項1】(a) 鉱物系潤滑油、植物油系潤滑油及び合成潤滑油から選ばれた少なくとも1種類の潤滑油からなる基油、

(b) 上記基油(a)に対し、0.05~10.0重量%の
下記式(1)~(7)で示される化合物から選ばれた少
なくとも1種類の摩擦低減剤、及び

*【化1】

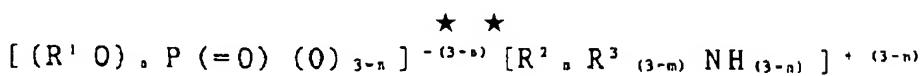


【化2】



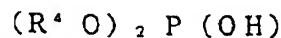
(2)

【化3】

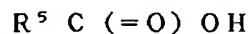


(3)

【化4】



☆



【化5】



☆

【化7】



◆ ◆

(c) 上記摩擦低減剤(b)に対し、0.1~20.0重量%の下記式(8)及び(9)で示されるアミンから選ばれた少なくとも1種類の直鎖アルキルアミン

【化8】



【化9】



(但し、式中、nは1又は2の整数、mは1~3の整数、pは1~10の整数、R¹は炭素数4~22の飽和又は不飽和のアルキル基、炭素数6~24のアルキルアリール基、ポリオキシエチレンを1~10モル付加したアルキル基、又はポリオキシエチレンを1~10モル付加したアルキルアリール基、R²は炭素数4~22の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数6~24のアルキルアリール基、R³はメチル又はエチル基、R⁴は炭*

*素数8~22の飽和又は不飽和のアルキル基、又はアルキルアリール基、R⁵は炭素数7~23の飽和又は不飽和のアルキル基、又は炭素数7~23の硫化アルキル基、R⁶は炭素数12~18の飽和又は不飽和アルキル基、R⁷は炭素数8~18の飽和又は不飽和アルキル基、R⁸は炭素数8~22の飽和又は不飽和の直鎖アルキル基。但し、R²が直鎖のアルキル基の場合はR⁸はR²よりも大きな炭素数の直鎖アルキル基)からなる潤滑油組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正内容】

【0015】

【化10】



【手続補正3】

【補正内容】

【補正対象書類名】明細書

【0041】

【補正対象項目名】0041

【化11】

【補正方法】変更



フロントページの続き

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 1 0 M	137:04			
	129:26			
	133:16			
	133:06)			
C 1 0 N	30:06			
	30:12			
	40:06			